

## 『球面調和函数と群の表現』野村隆昭著，第1刷（2018年7月25日）正誤表

ご指摘くださった方々にお礼を申し上げます。  
空欄になっている場合の追加日は181221です。

修正箇所		修正前	修正後	追加日
p. 2	問題 1.1.4 の文章	として $V$ が表される	が全空間 $V$ に一致する	
p. 22	問題 2.3.8 の 2 行目	連続函数である	連続である	
p. 32	例 2.6.6 の下から 3 行目	$\lim_{t \rightarrow t_0}$	$\lim_{t \rightarrow t_0 - 0}$	
p. 39	注意 3.2.4 から上に 3 行目	$B(X, \mathbb{C})$	$B(X, \mathbb{K})$	
p. 46	4 行目	実際に内積	内積	
p. 72	本文最下行	$g' = gH$	$g' \in gH$	190108
p. 104	下から 4 行目	補題 5.2.1 (2) により，互換の	補題 5.1.2 (2) と式 (5.3) により，隣接互換の	
p. 108	定義 7.1.1 の 1 行目	$\{h _{S^{n-1}}; \mathcal{H}_k\}$	$\{h _{S^{n-1}}; h \in \mathcal{H}_k\}$	190314
p. 123	問題 7.4.11	Gegenbauer の多項式	Gegenbauer 多項式	
p. 145	定理 9.3.8 の証明 1 行目	$I(R_a f) = f$	$I(R_a f) = I(f)$	
p. 151	式 (9.4)	$T(g)f(x)$	$T(g)f(u)$	
p. 164	定理 9.6.15 の 1 行目		$\omega \in C_b(G//K)$ の直後に ( $\omega \neq 0$ ) を挿入。	190707
p. 164	①の左辺	$\Phi_\omega(f^\# * g^\#) - \Phi_\omega(f^\#)\Phi_\omega(g^\#)$	$\chi_\omega(f^\# * g^\#) - \chi_\omega(f^\#)\chi_\omega(g^\#)$	190707
p. 164	①の直後の 2 行	$f, g \in C_b(G//K)$ と ..... 証明が終わる.	(1) を仮定すると①の左辺は 0 であるから，(2) が成り立つ。 (2) を仮定して $f, g \in C_c(G//K)$ とすると，①より $\chi_\omega(f * g) = \chi_\omega(f)\chi_\omega(g)$ を得て，(1) が成り立つ。	190707
p. 182	6 行目	$\frac{1}{2}t^2 Z(t)^2$	$\frac{1}{2}Z(t)^2$ .	191229
p. 182	下から 2 行目の式の中辺と右辺		$X$ は $S$ の， $Y$ は $T$ の誤りです。	

p. 211	下から 8 行目	よって	よって (たとえば拙著 [16] 命題 9.24 参照) ,	191229
p. 215	式 (13.23)	$z_1 z_2 \in \mathcal{E}$	$ \operatorname{Arg} z_1 + \operatorname{Arg} z_2  < \pi$	200101
p. 215	下から 10 行目と最下行	$\operatorname{Log}\left(-\eta - \frac{1}{z}\right) + \operatorname{Log}(-z)$	$\operatorname{Log}\left(\eta + \frac{1}{z}\right) + \operatorname{Log}(z)$	191229
p. 215	下から 9 行目	$-\eta - \frac{1}{z} \in \mathcal{D} \subset \mathcal{E}$	$\eta + \frac{1}{z} \in \mathcal{E}$	191229
p. 215	下から 8 行目 7 行目	式 (13.23) より, ... おこう.	式 (13.23) より, 結局 $\phi_\eta(z) = \operatorname{Log}(\eta z + 1)$ である.	191231
p. 215	下から 9 行目	$-z \in \mathcal{E}$	$z \in \mathcal{E}$	191229
p. 215	補題 13.3.7 証明 2 行目以下		$\psi_{\pi/2}$ と $\psi_{-\pi/2}$ を入れ替える (計 3 カ所)	191229
p. 230	下から 8 行目	$e^{-in\pi/2}$	$e^{-in\pi/4}$	191229
p. 248	下から 7 行目	$(\mathbf{x}, \mathbf{y} \in \mathbb{R}^n)$	$(\mathbf{x}, \mathbf{y} \in \mathbb{R}^n, t \in \mathbb{R})$	190707
p. 248	下から 2 行目	$Sp(V)$ の元	$Sp(V)$ の部分群	190707
p. 328	最下行	命題 14.4.6	補題 14.4.3	191229

### 文献に関する補遺

[52] 2nd Ed. 2016 が出ていました. 本書の本文で引用している箇所は変わっていません.

[148] 雑誌の略称は, Int. J. Math. & Math. Sci. というように, & を入れるようです.

[191] 2018 年に出版されました (受理されたときは, 2019 年の 1 巻か 2 巻だと連絡されたのですが). Kyushu J. Math., **72** (2018), 423–427.

### 追加文献 (著書)

1. 森本光夫, 球面上の超関数, 上智大学講究録, **12** (1982).
2. E. Kaniuth and K. F. Taylor, Induced Representations of Locally Compact Groups, Cambridge University Press, Cambridge, 2013.
3. N. R. Wallach, Harmonic Analysis on Homogeneous Spaces (2nd Ed.), Dover, 2018.

### 追加文献 (論文)

1. J. Hilgert, Reproducing kernels in representation theory, Contemporary Math., **468** (2008), 1–98.
2. M. Wüstner, A connected Lie group equals the square of the exponential image, J. Lie Theory, **13** (2003), 307–309. (added 190123)